



MONTHLY

かわせみ通信

9月号

2023年9月

Vol.169

発行所



ECOLOGY & SCIENCE 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号 (〒510-0023)

TEL.059-332-5122 (代) <https://www.tokai-techno.co.jp>

【Nature positive??? 30by30 WHAT?】

冒頭から??な方もみえるかと思えます。環境関連にかかわっていないビジネスパーソンでNature positive (ネイチャーポジティブ)・30by30 (サーティィ バイ サーティィ) という言葉を知っておられる方は1割ぐらいでしょうか。Nature positive とは「自然再興」と訳され、自然生態系の損失を食い止め、回復させていくことを意味する言葉です。この考え方は、2021年6月G7サミットで「2030年までに生物多様性の損失を止めて変転させる」を確認し、2022年のCOP15において「昆明・モンリオール生物多様性枠組み」が採択されたところから出てきました。3年、5年後には脱CO₂/カーボンニュートラルと同じぐらい市民権を得ていなくてはならない大切な言葉であり、当然30by30はアイスクリームショップではありません。

2023年3月7日の環境省HPIにも掲げられている目標として「2030年に国土の30%以上を自然環境エリアとして保全する」というキャッチコピーが30by30です。「気候変動への対処は必要だが、生物多様性の喪失に対処するには

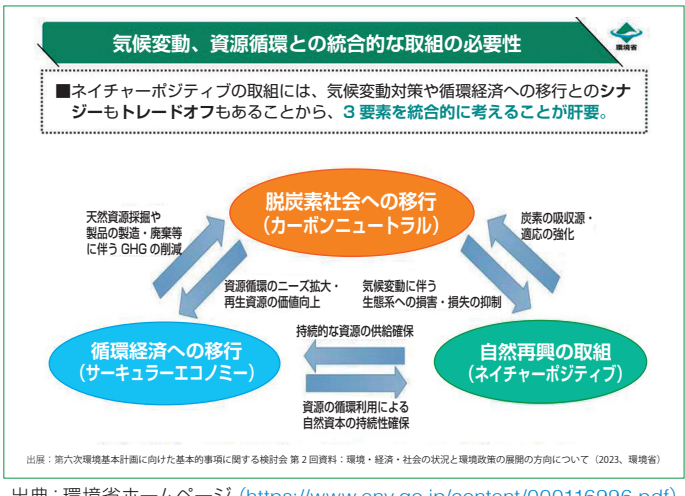
不十分」との議論からの目標です。

2030年に生物多様性の損失を止める、この考えに異論はなく重要なことです。ただ、「世界で3億9000万人の雇用創出、年間10.1兆ドル規模のビジネスチャンス」と謳われていることには「えっ?」と思わざるを得ません。これを日本のスケールに落とし込んで考えたときに2030年での30%の目標、もしくは2040年のポジティブ (減少から上昇へ反転) をもたらすことに、そのような大きな

ビジネスチャンスが生み出されるでしょうか。

脱CO₂、カーボンニュートラルは10年、15年の時間をかけて、社会要求・生活環境の変化への取り組みが経済活動 (ものを生み出す経済) の変化をもたらすこととなり、ビジネスチャンスとなりました。2030年まであと7年、2040年までは17年しかありません。それまでに今のカーボンニュートラルの社会的、経済的活動の上にネイチャーポジティブの経済的負担の活動がスムーズに入ってくるのか疑問に感じるところです。特に30by30はおそらく経済的負担が増えるだろう割に、それに見合うビジネスチャンスは難しいと思えます。国内の自然を考えたときに陸地 (森林関連) は農林水産省、海 (海岸) は国土交通省という枠組みの中で、どのような連携をもっていけるかが課題かもしれません。

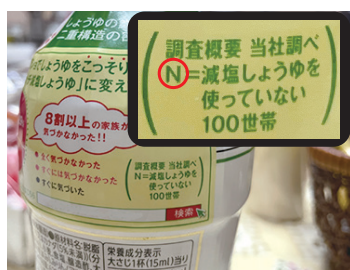
ゴールポストを動かすことが無く2030年、2040年にその目標を達成することが、カーボンニュートラルと同様に重要だと、世界で根付いて社会的・経済的なムーブメントになっていくことを期待したいと思えます。



世の中にあふれている「えぬ」って?

教えて! カワセミ先生

我々分析会社ではn=2 (えぬに) で分析、n=3 (えぬさん) で排ガス試料採取といった具合に、n数 (えぬすう) を当然の如く使うけど、そもそも『n』ってなんだろう。『n』とは、統計学でいうところのnumberの頭文字を取ったもので「サンプル数 (標本数)」を示すものなんだ。n=2で分析ということは同じ試料から2サンプルを分取して分析するので分析する数は2検体となるよ。濃度のばらつきが大きい分析試料など、平均を取って結果報告が必要な場合などに使われるよね。でも写真のように大文字で表記される『N』は「母集団」という意味になるんだ。同じ「えぬ」でも大文字と小文字では意味が異なるので、間違えないように気をつけたいところだよ。



測ってみよう! 探検隊 Vol.82

台風や局地的豪雨による突然の雨、pHはいくつくらいなんだろう?

近年天気予報の精度が格段に上がったとはいえ、突然の雨には困られることも多々ありますね。ふと、pHっていくつくらいなんだろうかと疑問に思い、測ってみることにしました。通常の雨は、大気中の二酸化炭素が溶け込むことによってpH5.6前後を示すことから、pH5.6以下の雨を酸性雨と言っています。しかし、今回採取した時の局地的豪雨は、海洋で急速に発達した積乱雲による雨だったため、台風のと比べて比べてかなりpHが高くなっていました。ここ四日市は海沿いでもあるため、海洋由来イオンの影響によって、中性側へ傾いたと考えられます。降り出してから採取を開始するまでの時間も重要なファクターと思われれますが、今回は降り出したタイミングでの採取はできませんでした。いろいろ測ってみると夏の自由研究になるかもしれませんね。

	pH	採取時間
台風時 (2023.8.16 採取)	5.3	降り出しから5時間以上後
局地的豪雨時 (2023.8.23 採取)	6.1	降り出しから10分後
R2年度 8月全国値 ※環境省データ	4.41 ~ 5.27	不明

社員プチコラム

森 崇 (環境事業本部 四日市分析センター フィールドGr)

この子たちは、私の愛犬のフィーナちゃん (黒い方) とソラ君 (茶色の方) です。最近の私の癒しは実家にいるこの2匹と遊ぶことです。実家は志摩の浜島にあり海岸が近く、帰った際には一緒に散歩に行くことも楽しみになっています。ソラ君は、昨年の秋にお迎えしたのですがまだ1歳なのですが、物おじしない性格で、なんにでも興味を示しています。フィーナちゃんは超マイペースな性格で元気いっぱいソラ君を少し迷惑がっています。そんな2匹の掛け合いを見ているのも可愛くて私の癒しとなっています。皆さんの癒しはなんですか?



編集後記

脱CO₂/カーボンニュートラルは今回の記事で触れたように、地球温暖化や酸性雨の問題からも避けられない重要な地球の課題です。弊社HPのTOPページも「サステナビリティ」というカテゴリーを設け取り組みなどを掲載しています。またよろしければご覧ください。(みっちー)

